

船舶事故調査報告書

平成28年6月9日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 庄司邦昭（部会長）

委員 小須田 敏

委員 根本美奈

事故種類	同乗者死亡
発生日時	平成27年11月8日 09時25分ごろ
発生場所	群馬県前橋市大沼 地蔵岳一等三角点から真方位359° 1,890m付近 (概位 北緯36° 33.5′ 東経139° 10.6′)
事故の概要	手漕ぎボート（船名なし）は、揚錨作業中、同乗者が落水し、死亡した。
事故調査の経過	平成27年11月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	手漕ぎボート（船名なし）、総トン数なし なし、有限会社青木旅館（A社） 約3.56m×約1.08m×約0.47m、FRP 機関なし、不詳
乗組員等に関する情報	操縦者 男性 39歳 操縦免許なし 同乗者 男性 65歳
死傷者等	死亡 1人（同乗者）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 雨、風向 西、風速 約1.4m/s 水象：湖面 平穏、水温 約11℃
事故の経過	本船は、操縦者及び家族1人（以下「同乗者」という。）が乗船し、平成27年11月8日06時10分ごろ釣りの目的で、A社の専用棧橋を出発した。 操縦者は、大沼北岸付近において、本船の船首を北に向け、船尾部からアンカーを投入して釣りを行っていたが、同乗者から寒いので釣りをやめて帰ろうと言われ、帰ることにした。 本船は、操縦者が、中腰の姿勢で舷側からアンカーを揚収していたところ、西方からの風を受けて身体が左側に傾き、右舷船尾部のガンネルが水面下になるまで傾斜して水が船内に流入し、水船状態となった。

	<p>本船は、09時25分ごろ、操縦者が船尾部から、同乗者が船首部からそれぞれ落水した際に転覆した。</p> <p>操縦者は、転覆した本船を引き起こそうとしたが戻すことができず、船底につかまっていたところ、また、同乗者は本船の近くで漂流していたところを発見した通行人にそれぞれ救助された。</p> <p>操縦者及び同乗者は、通行人が要請した救急車で病院に搬送された。</p> <p>同乗者は、9日05時44分に死亡が確認され、死因は、溺死と検案された。</p> <p>本船は、通行人によって本事故発生場所付近の岸辺に引き揚げられた。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図、写真1 本船 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>操縦者は、貸しポート業者であるA社から本船を借りて使用していた。</p> <p>A社は、本船を貸し出す際、操縦者及び同乗者に本船の上で立ち上がらないよう注意しており、また、救命胴衣も貸し出す旨を伝えていた。</p> <p>操縦者及び同乗者は、救命胴衣を持参していなかったが、A社からも借りていなかったため、着用していなかった。</p> <p>本船は、船底の二重構造部分に発泡スチロール製の浮力体が封入されており、沈まないようになっていた。</p> <p>アンカーは、鉄製で重さが約7kgであった。</p> <p>アンカーロープは、ナイロン製で長さが約20m、外径が約10mmであった。</p> <p>操縦者は、トレーナーとジーパンの上にカッパの上下を着用して長靴を履いており、また、同乗者は、ジャンパーと作業ズボンの上にカッパの上下を着用し、長靴を履いていた。</p> <p>操縦者は、身長が約167cm、体重が約60kgであった。</p> <p>同乗者は、身長が約170cm、体重が約80kgであった。</p> <p>本船の乾舷は、船首約0.22m、船尾約0.17mであった。</p> <p>本事故発生場所の水深は、約10mであった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>同乗者は、溺死した。</p> <p>本船は、大沼北岸付近において揚錨作業中、操縦者が中腰の姿勢で舷側から揚錨作業を行ったことから、右舷船尾部のガンネルが水面下となるまで傾斜して水が船内に流入し、水船状態となって操縦者及び同乗者が落水したものと考えられる。</p>

	同乗者は、落水して溺死したものと考えられるが、その状況を明らかにすることはできなかった。
原因	本事故は、本船が、大沼北岸付近において揚錨作業中、同乗者が落水したことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・手漕ぎボートに乗船する際には、常に救命胴衣を着用することが望ましい。

付図1 事故発生場所概略図



国土地理院 2万5千分の1地形図使用

写真1 本船

